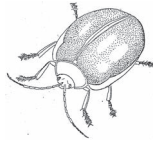


たんぽう



ミツコブエンマコガネの採集例

久保弘幸

加古郡播磨町大中でミツコブエンマコガネ (*Onthophagus trituber*) を採集したので、報告しておく。

採集場所：兵庫県加古郡播磨町大中 (図1)

採集日：2018年11月6日

採集個体：1♀ (図2)

状況：同地の大中遺跡公園内の、遊歩道沿いで犬糞下に潜んでいた個体を採集。同じ糞に他の糞虫は見られなかった。同地にはコブマルエンマコガネ (*Onthophagus atripennis*) をはじめ、数種の糞虫が生息している。



図1 既知の分布域と今回の採集地。



図2 今回採集したミツコブエンマコガネ (♀)。

ミツコブエンマコガネは、兵庫県西部～岡山県の瀬戸内沿岸地域に分布するエンマコガネ類の1種で、都市公園や河川敷等を生息場所とし、主に犬糞に依存しているとされる (田中稔 1993)。その特異な分布状況から、外来種と考えられている。兵庫県下における本種の分布は、揖保川・夢前川流域を中心とする中播磨地方にあり、管見の限り、東播磨地方での採集例は知られていないようである。

今回の採集例によって、ミツコブエンマコガネが中播磨地域から東播磨地域へと分布を拡大したことが明らかとなった。この間には、市川、加古川等の広い河川があることから、本種の移動性はかなり高いことが想起される。神戸市・明石市など、より東の地域および内陸部への分布拡大も予測されることから、今後の調査に注目したい。

○参考文献

田中稔, 1993. ミツコブエンマコガネ綱干に産す. きべりはむし, 21 (1): 26.

(Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市
兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

兵庫県尼崎市でヤシオオオサゾウムシを発見

西川和行

2018年12月5日のお昼頃、当直仕事を終えた筆者は、業務の一環で、兵庫県尼崎市立花町4丁目の、とある医院へ向かった。医院に着き、間口2mほどの自動スライドドアを開けて受付玄関に入り、目の前の受付員に対して処方薬の受領に来たと申し伝えて待機中、ドアから10cmほど内側の足元に、何やら見たことのない真っ赤な甲虫がモゾモゾと動いていることに気づいた。大きさは3~4cmくらいある。口吻が伸びていたのでゾウムシであることはわかったが、奇妙なのが色と季節。暖冬とはいえ12月という冬期に、元気に動く足元の虫が非常に気になったが、この後、職場に戻ることから持って帰るわけにはいかず、写真を撮影した (図1)。虫は、スライドドアが開いた拍子に歩いて院外へ出ていき、著者も受付から処方薬を受け取り、その場を離れた。